



意見書

三 建 第 17号
平成19年4月25日

国土交通省道路局長 様

三笠市長 小林 和 男



平成19年4月2日付国道企第114号をもって意見を求められた中期的な計画の作成について、下記のとおり意見を提出します。

記

1 物流拠点と観光拠点・生産地等を効率的にネットワークし、北海道の優位なポテンシャルを活かす道路施策

地球温暖化が進み、九州では米作ができなくなり、今後は北海道が食料基地の中心となる。このことから、広域分散型社会の北海道においては、生産地と札幌などの拠点都市や空港港湾へのネットワーク整備が重要となる。

また、北海道を海外においても魅力ある観光地として推進するため、観光地間を結ぶ道路を安全・安心に通行できるよう、外国語標記による案内標識の設置や、危険箇所の整備を進める必要がある。

2 交通安全対策（至急）

北海道は、昨年交通事故死者数ワースト1を14年ぶりに返上しましたが、交通事故死者数は300人を超えており、いまだに深刻な状況にあります。

本市においては、主要道道岩見沢三笠線の桂沢地区で、昨年6月に2件の交通事故が発生し、うち1件は2名の方の尊い命が奪われております。

また、国道452号の桂沢湖から三芦トンネル間については、急カーブが多く死亡交通事故も発生しており、今後更なる発生が危惧されていることから、早急に整備を進める必要があるものと考えております。

更には、国道452号の山間部で事故などが発生した場合、携帯電話による連絡ができないことから、連絡通信体制の整備も進めていただきたい。